在日コリアン寺院調査報告

宮　下　良　子*

研究所プロジェクト（「グローバル化時代の境域社会における民族再編のダイナミクス――東南アジア・東アジアの地域間比較」）計画による個人調査の２年目は，「在日コリアン寺院」の中でも，センター寺院である曹渓宗「普賢寺」および日本曹渓宗総本山「高麗寺」に焦点を当てた。特に両寺院の管長である釋泰然氏が京都，高麗寺において1984年から実施している（今年は32回目）コリア半島出身殉教者慰霊大祭に参与観察できる機会を得，急遽参加することとなった。これには，昨年，ソウルの太古宗総本山奉元寺へ同行調査することを許可してくださった在日コリアン寺院の６代目会長，金光徳氏の尽力があり，また，現在，高齢化した釋泰然氏の代わりに，普賢寺の住職代理を兼ねている金氏によって，これまで研究者の調査がかなわなかった京都の山奥にある高麗寺への参与観察が可能となった。

《調査スケジュール》

10月24日

翌日の25日に京都・高麗寺において，第32回コリア半島出身殉職者慰霊大祭が午後１時から開催され，それに参加する目的で今回の調査を計画したが，高麗寺は京都府相楽郡の山中にあるため，生野区の普賢寺の代務者の配慮で，車での移動となった。しかし，式典の準備があり，25日の午前８時にJR鶴橋駅で待ち合わせなければならず，24日（土），西成区に前泊した。

10月25日

午前８時にJR鶴橋駅前で普賢寺代務者の家族と待ち合わせ，高麗寺へ向かった。５万坪の境内を巡検し，高麗寺平和公園前広場にて，式典の準備を手伝った。午後１時に開始した慰霊祭は，１．開会辞，２．黙とう（全員），３．献灯献花，４．代表焼香，５．誓いの祈り（日本僧合同），６．大会辞（特定非営利法人ニッポンコリア友好平和協議会理事長），７．追悼辞，８．来賓紹介，９．鎮魂の舞（鶴の舞），10．合唱歌（「アリラン」，全員），11．誓いの祈り（コリア僧全員），12．一般焼香，13．閉会辞，14．記念写真撮影　というスケジュールであった。NPO法人ニッポンコリア友好平和協議会が主催し，後援には，念法真教総本山金剛寺，金光教，和宗総本山四天王寺が連なっていた。閉会は午後４時過ぎで，その後，式典の後片付けを手伝い，鶴橋に戻ったのは，午後８時ごろである（写真１，２，３，４，５，６）。

10月26日

生野区勝山（桃谷）にある曹渓宗普賢寺で代務者であるＴ氏に聞き取り調査を行った。その後，帰着したのは午後６時ごろである（写真７，８）。

＊東洋大学アジア文化研究所客員研究員；Asian Cultures Research Institute, Toyo University, 5-28-20, Hakusan, Bunkyo, Tokyo, 112-8606 / miryo@pop06.odn.ne.jp

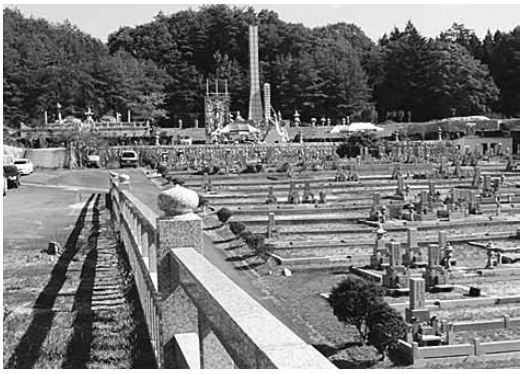
《成果と課題》

報告者は，これまで，在日コリアンのエスニシティを考察するアプローチとして，在日社会における仏教および民俗宗教のあり方を「在日コリアン寺院」として，一定の体系化を図ってきた。その４つ（①．在日本韓民族仏教徒総連合会，在日本朝鮮仏教徒協会，海東会，②．①に属さない仏教系寺院，③．民俗宗教系寺院，④．その他：貸会場，廃寺）の階層構造の最上部にあるのが，今回の高麗寺，および普賢寺が属する曹渓宗の在日本韓民族仏教徒総連合会である。特に，高麗寺は，５万坪の敷地を有し，日本における対外的な韓国仏教系寺院として位置づける計画が進んでいる。実現すれば，約百名を収容可能な寺院になり，韓国からの僧侶たちを招聘することができるし，在日，ニューカマー，日本人に関わらず，あらゆる僧侶たちが修行できる寺としても機能することができる。それは，韓国本土で実践されているローカルな仏教活動が京都の高麗寺を拠点としたローカルな在日コリアン仏教と交差することであり，換言すると，そのローカルなもののつながりや接続にこそ，地域を広げ拡大し続けようとするグローバルな現象が見出されるということである。その意味からも，高麗寺は今後の在日コリアン社会におよび日本社会において重要な位置付けになることが予想される。

また，今回の慰霊祭の対象となる無縁仏1135柱は，1982年ごろまでは，東京の祐天寺に安置されていた（祐天寺遺骨問題）が，本山末寺という関係で高麗寺の慰霊塔に安置されている。

そして，普賢寺においては，高麗寺の管長も兼ねる釋泰然氏が住職であるが，1968年に日韓仏教交流使節団として来日し，その後，普賢寺，高麗寺を設立したが，現在は高齢により，住職代理として，金光徳氏がその任にある。実際には，代務者であるＴ氏の役割が大きいが，僧籍にないことから，問題もあるということである。

今回の国内の調査を含め，韓国本土の曹渓宗，太古宗の仏教系寺院の調査を継続し，変容を続けるコリアンの宗教実践から，彼ら／彼女らのエスニシティにまで言及することができるよう，考察を深めていきたいと考える。



写真①　高麗寺境内にある平和の搭

写真②　高麗寺の大雄殿

写真③　高麗寺の本堂

写真④　韓国・朝鮮人戦死者の霊標札

写真⑤　鶴の舞

写真⑥　鎮魂の舞

写真⑦　普賢寺

写真⑧　普賢寺本堂